

第2回波瀬川における避難のあり方検討会 議事要旨

委員	意見	回答
友岡委員 (一志団地自治会)	・検討会の資料は、短時間では全て理解するのが難しい。今後の為にも地元や現地での説明をお願いしたい。	●本検討会において、避難誘導・避難情報の方向性が取りまとまり次第、地元において勉強会を開催していく予定です。
	・雲出川や波瀬川のカCTV画像放送がH27.4に終了してしまう。その後の対応を教えてください。	●現在、市の河川カメラの画像をケーブルテレビを通して、放送していますが、ご意見をいただきました通り平成27年3月末には地上デジタルへの完全移行に伴い、配信が出来なくなります。河川(波瀬川)の水位情報については、NHK津放送局から配信される地上デジタル放送により確認する事ができます。また、H25.2.20には(一社)日本ケーブルテレビ連盟三重県協議会と三重河川国道事務所にてCCTV映像提供に関する包括協定を締結しております。今後、状況が整えばケーブルテレビで画像放送が行われることとなります。
豊田委員 (平岩自治会)	・過去の出水(H16)時に山本橋に流木が堆積し、堤防を越水して県道を洪水が流下している。	●H16年当時の出水状況を整理し、今後の対応について検討しました。 【別添-3 参照】
川口委員 (三重大学)	・避難勧告の見直し(段階的な勧告)については、見直し経緯を地域の方に説明することが大切。経緯を説明しないと、同じことの繰り返しになる。	●本検討会において、避難誘導・避難情報の方向性が取りまとまり次第、地元において勉強会を開催していく予定です。
	・段階的な避難勧告時には、避難情報が最新の情報だけだと、地域住民が勘違いを生じることが懸念されるので、混乱が起きないように対策が必要である。	●防災無線の電話応答システムについて。放送内容が聞き取りにくい場合に放送内容を再確認していただくためのサービスになりますが、直近の1日分(録音数で20件)の録音された音源を確認する事が出来ます。最新の情報で、避難勧告状況が分かるように放送内容を工夫していきます。
	・避難情報を住民に伝える時には簡単に伝達していると感じる。多くの検討を行っているのを生かし、納得してもらえるような避難情報を出さないと住民は動かないのではないかと	●一斉に避難勧告を行うのではなく、水位上昇を考慮し、段階的に避難勧告を発令していくとともに、地元で今後開催をしていく勉強会において、避難の判断が必要となる状況とはどのような状態なのかを一緒に学んでいただくことにより、「納得した上での避難行動」に資すると考えています。
菊川委員 (一志総合支所長) 酒井委員 (津市危機管理部長)	・段階的な避難勧告を実施する場合、避難判断基準(下川原水位2.3m)については現場の感覚とのズレがあると思慮される、見直しを検討すべきでは。	●避難勧告の基準となる避難判断水位については、第2回検討会の内容を踏まえ見直しを検討しました。 【別添-3 参照】 ●現在、河川管理者が津市役所へ提供している情報としては、川の防災情報と同様の「水位・雨量情報」だけではなく、今後の河川の水位の見込みに関する情報についても提供しており、引き続き、適切な避難判断に資する情報については精度の向上に努めていきます。
葛葉座長 (三重大学)	・今後の避難判断については、水位だけではなく降雨エリアや降雨持続時間等を考慮し、過去の水位データ等と比べて判断していくことになるのか。	
川原林委員 (三重河川副所長)	・道路は避難路や一般交通も利用しているので、洪水時の道路の使い方も検討していく必要がある。	●避難勧告の発令手順や避難判断水位の見直しを検討中しており、見直し後の実際の状況を見ながら検討を進めていく必要があるため、本検討会後の課題の一つとして認識共有をすることとさせていただきます。